

ゲンビどこでも企画公募 2016

募集期間：2016年7月1日(金)～8月31日(水)

展示期間：2016年11月5日(土)～11月27日(日)

今年も自信作・意欲作を大募集！

審査のポイントはスペースと作品のコラボレーション効果

「ゲンビどこでも企画公募」は広島市現代美術館の無料パブリックスペースをアーティストに開放して開催するオープン・プログラムです。本プログラムは、美術館の展示室ではないさまざまな空間の特徴を活かした、作品展示プランを広く国内外から募集します。空間と作品の魅力を互いに引き出し合っていることが重要な審査ポイントです。絵画、立体、インスタレーション、パフォーマンス等、作品メディアは問いません。本企画を通して、アーティストの意欲的な表現をサポートし、発表の場を提供します。

【特設サイト】募集要項・応募用紙ほか、館内スペースの特徴や過去の入賞作品の展示写真等を掲載。<http://www.hiroshima-moca.jp/dokodemo/>

地元企業・特別審査員とともにアーティストの育成、そして美術館の新たな魅力の創出

アーティストの意欲的な表現をサポートし、発表の場を提供するとともに、美術館という場の新しい魅力を創出し、発信することを目的として行う本プログラム。さらに、創作活動の場を地元との連携から作り出していけるようにとの趣旨に賛同いただいた地元企業3社（オタフクソース株式会社、オリエンタルホテル広島、株式会社 広島アンデルセン）と、各方面で活躍する特別審査員との協力体制により、創造の場と交流の場を創出します。

幅広い分野で活躍する特別審査員

飯田志保子／インディペンデント・キュレーター、東京藝術大学准教授

1998年開館準備期から11年間東京オペラシティアートギャラリーに勤務。2009年よりブリスピンのクイーンズランド州立美術館に客員キュレーターとして約2年在籍後、韓国国立現代美術館2011年度インターナショナル・フェロウシップ・リサーチャーとしてソウルに滞在。アジア地域の現代美術、美術館やビエンナーレをはじめとする芸術文化制度と社会の関係、共同企画に関心を持つ。第15回アジアン・アート・ビエンナーレ・バンガラデシュ2012、あいちトリエンナーレ2013、札幌国際芸術祭2014キュレーター他。

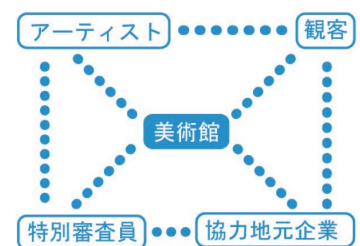
沢山 遼／美術批評家

2005年武蔵野美術大学大学院造形研究科修士過程修了。美術批評家として、雑誌などへの寄稿多数。最近の論考に「高松次郎を斜めから見る」『高松次郎 制作の軌跡』（水声社、2015年）、「差異と関係——ジョセフ・アルバースとブラック・マウンテン・カレッジの思想」、『ART TRACE PRESS 03』ART TRACE、2015年）、「ポスト・モダン批評と言語の牢獄」『Booklet 24 美術と批評』（慶應義塾大学アート・センター、2016年）など。武蔵野美術大学、首都大学東京、東京藝術大学非常勤講師。

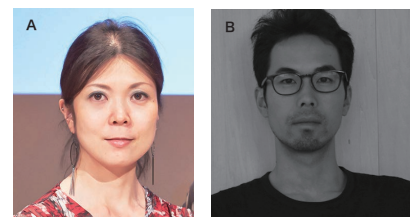
藤本由紀夫／アーティスト

1950年名古屋生まれ。大阪芸術大学音楽学科卒。

80年代半ばより日常のなかの「音」に着目した装置、サウンド・オブジェを制作。インスタレーションやパフォーマンス、ワークショップを通じて、空間における「音」の体験から新たな認識へと開かれていくような活動を展開している。主なグループ展に2001年「第49回ヴェニス・ビエンナーレ」、2007年「第52回ヴェニス・ビエンナーレ」など。



- ・アーティストの育成
- ・美術館の新たな魅力を発信
- ・創造の場、交流の場をつくる



A 飯田志保子
B 沢山 遼
C 藤本由紀夫

作品プラン募集 7月1日(金)～8月31日(水) 必着

募集内容

- ① 作品のジャンルは問いません。(パブリックスペースの広さや構造において実現可能なもの)
- ② 広島市現代美術館のパブリックスペース(エントランスホール、ミュージアムスタジオ、回廊、ホワイエ、階段まわり等)を活用した展示プランを募集します。
- ③ 開催期間を通して展示できる作品であること。(パフォーマンスや演奏の場合は1日単位でも可)
- ④ 作品の制作、設置、展示、撤去、運搬、並びに広島市現代美術館までの交通費など、当企画に関わる費用などは、すべて出品者の負担となります。

応募方法

応募用紙(特設サイトからダウンロードもしくは美術館に請求(92円切手を貼った返信封筒を同封)、館内でも配布)に、必要事項を記入のうえ、現代美術館「ゲンビどこでも企画公募2016」係まで郵送してください。

応募に関する注意

- ・応募要項(特設サイト記載)を必ず確認すること。条件に満たない場合は審査対象外。
- ・応募受付は郵または美術館への持参のみ。eメールでの応募は不可。
- ・会場下見可能。希望の場合は美術館まで問い合わせを。

審査選考・結果発表 10月7日(金) 特設サイトで入選者発表!

審査および入選者の発表

特別審査員と当館学芸スタッフによる審査を行い入選者(8名/組)および各賞を選出します。

- 入選:8名/組→金一封(10万円)とオリエンタルホテル広島・シングル1泊(11月4日、朝食付)、オタフクソース株式会社と株式会社 広島アンデルセンより各企業の製品が授与されます。
- 特別審査員賞:3名/組
- オリエンタルホテル広島賞:1名/組(オリエンタルデザインギャラリーでの個展開催の機会提供)
- 観客賞:1名/組(来場者による投票。投票期間:11月5日～11月20日)

展覧会 11月5日(土)～11月27日(日) 入場無料

- 入選作家8名/組の作品とゲンビスペースのコラボレーションをぜひご覧ください!

授賞式

- 2016年11月5日(土) 14:00～
式は誰でも参加可能、新しい才能の発見と応援にぜひお越しください。

スペシャルトーク

- 2016年11月5日(土) 15:00～
「芸術作品ではない作品を作ることができるだろうか？」
特別審査員の藤本由紀夫氏によるトークを開催します。

地元協力企業の日

観客賞へ投票していただいた先着50名様に素敵なプレゼントがあります。

- 広島アンデルセンの日/11月6日(日)「石窯食パン」
 - オタフクソースの日/11月13日(日)「広島お好み焼こだわりセット」
- ※プレゼントの内容は変更になることがあります。

【過去の「ゲンビどこでも企画公募」入選作品】



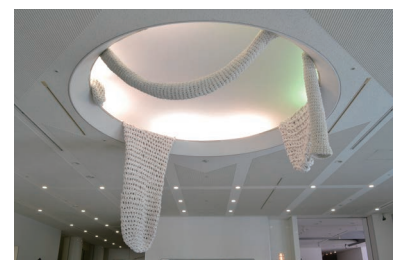
2014年/特別審査員賞(八谷和彦賞)、観客賞
関川航平《風邪をひいて、なおす》



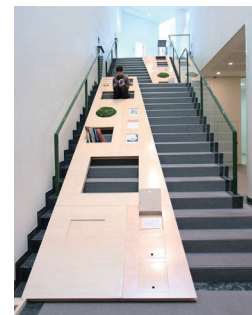
2013年/入選
文谷有佳里《なにもない風景を眺める》



2012年/特別審査員賞(髪嘔賞)
横田健司《sky climb》



2011年/特別審査員賞(谷尻誠賞)
中村潤《kamiwoamu kamiwomaku iriguchi》



2009年/地元企業賞
谷田真+名城大学建築学科谷田研究室
《どこでも・何にでも・ファニチャー》